

アメダス気象情報を利用した イチジク黒葉枯病の発生予測

病害虫部

1 背景、目的

イチジク黒葉枯病は葉、果実、枝幹に被害が発生します。防除対策は病気の発生を予測して、適切に行わなければなりません。病気の発生は気象状況に大きく左右されるため、毎年発生時期や程度が異なります。

そこで、気象情報をもとに本病の初発日と発生量の予測を可能にしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 平均気温 20℃以上の時の1時間降水量の積算が 50mm に達した日と本病の初発日との間には高い正の相関が認められます (図1)。
- 2) 5月1日を基点にした場合、本病の初発日は推定式： $0.78x + 6月16日$ (xは平均気温 20℃以上の1時間降水量の積算が 50mm に達した日数) を用いて予測できます (図1)。
- 3) 初発日が早いほど、8月下旬～9月上旬の本病発生量は多くなります (図2)。
- 4) 初発日が早いと被害が大きくなると予測されるので、薬剤防除は推定される本病初発日の約2週間前から適切に始め、梅雨が終わるまで約10日間隔で続ける必要があります。

3 主要なデータ・画像など

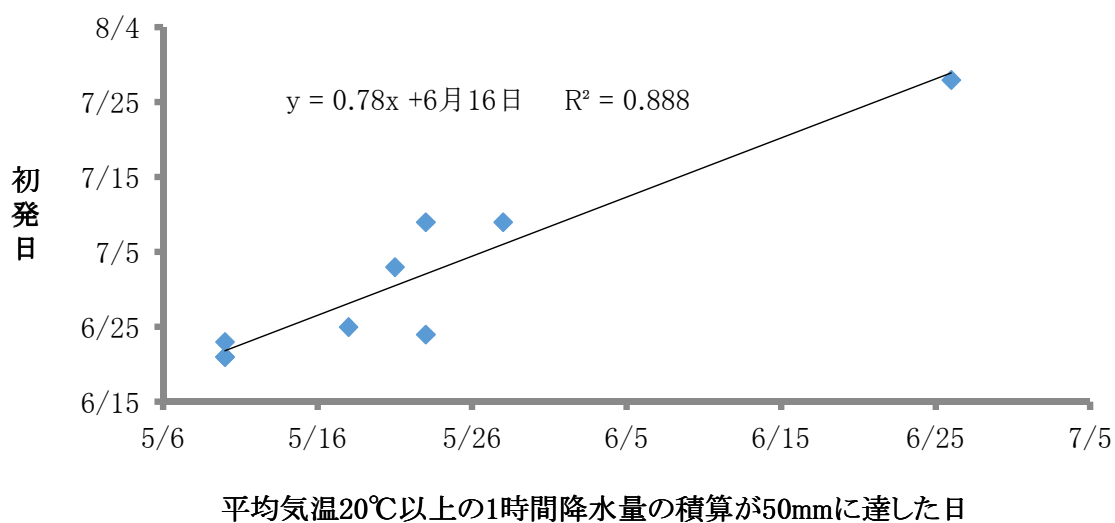


図1 平均気温 20℃以上の 1 時間降水量が 50mm に達した日と黒葉枯病初発日の関係

- 注) 1. 図中の相関式のうち、y は初発日、x は5月1日を基点とした平均 20℃以上の1時間降水量の積算が 50mm に達した日を表す。
 2. 平均気温、1時間降水量は調査地点から最寄りのアメダスデータを利用。

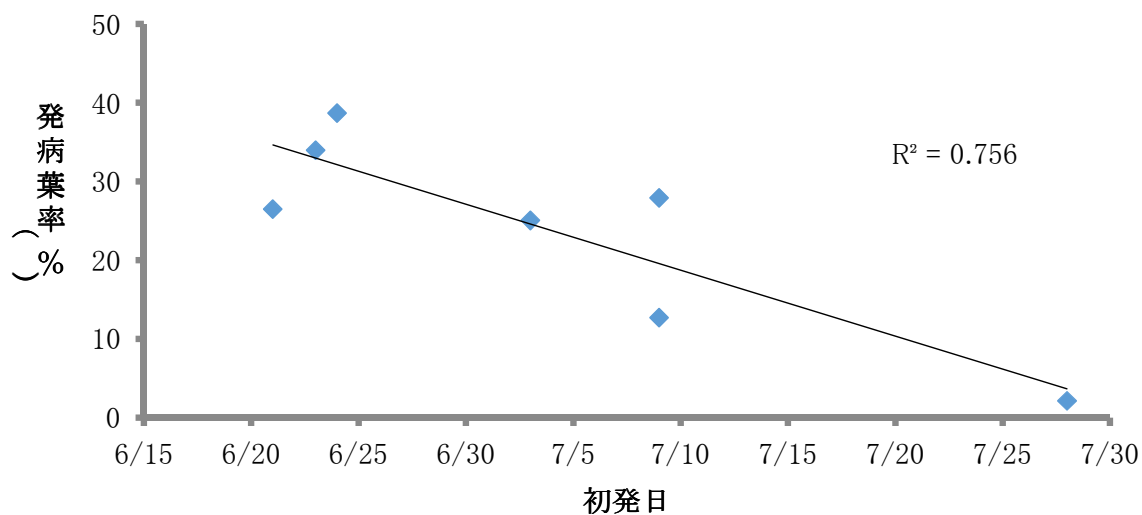


図2 黒葉枯病初発日と8月下旬～9月上旬の発病葉率の関係